

## パラダイムシフト

浄安寺 大館 征秀

雑誌に安田理深先生のお言葉が載っていました。それは「人生が行き詰まるのではない。自分の思いが行き詰まるのだ」というものでした。この標語について思ったこととお話させていただこうと思います。

科学哲学者のトーマス・クーンという方が、パラダイムという考えを提起しました。

何かというと科学というのは、多数の同意あればそれが共通理解としてパラダイムという枠組みになるのだと。パラダイムというのは、自分の信念とかみなが共有している考えのことです。

例えば、昔は天動説、つまり、地球を中心として太陽やら土星やらが回っているのだと考えられていました。それ以外に考え方があるの？と当時は思われていたでしょう。しかし、本当は地動説だったのです。太陽を中心として地球などが回っていて、むしろ地球が動いているのだと。

天動説が地動説に変わる時、当時の人々、特にキリスト教との軋轢がありました。このパラダイムが定着するためには大きな考え方の変換が必要だったのでしょう。人間は今までの自分たちの考えが正しいと思いたいですし、それを改めることも難しいことです。

私たちは凡夫でありますから、この話に照らしてみれば天動説という間違っただパラダイムに囚われている人々。つまり、世界は自分を中心に回っており、自身が正しいと思いながら生きる自力の人間ではありませんでしょうか。私は無明とはこのことを指しているのではないかと思っております。

安田先生の標語に戻れば、人生に行き詰まる時は、私たちがそれぞれ持っているパラダイムでは対応しきれないことが起こったに過ぎないとも思われます。

金子大栄先生でしたか、「念仏は自我が壊れる音」と表現されていましたが、自我を自身のパラダイムとすれば、念仏の1つ1つが天動説から地動説への、ひいては自分のパラダイムから他のパラダイムへの、つまり、自力から他力への転換を促す呼びかけのようにも思われるのです。